

アケビコノハ(ヤガ科)の多数個体が 2013 年秋に和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”へ漂着

Many individuals of *Adris tyrannus* (Noctuidae) washed ashore on “the Kitahama beach” of the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University in autumn in 2013

久保田 信

和歌山県田辺湾の湾口に位置する京都大学瀬戸臨海実験所の通称“北浜”に、稀だがアケビコノハ *Adris tyrannus* の翅がまとまって打ち上がることもある（久保田，2009）．今回珍しく多数の翅が4日間にわたり毎日漂着していたので記録する．それは総計 16 枚の表側が枯葉にそっくりな前翅（左右併せて）と 18 枚の独特の斑紋をもった後翅（左右併せて）で、実験所“北浜”の船着場両脇の砂浜の満潮線付近に 2013 年 10 月 31 日から 11 月 3 日の毎日（夕方日の入り前に調査）打ち上がっていた（図 1）．前後左右の翅はそれぞれ一日ごとに 19, 4, 10, 1 枚打ち上がったが、10 月 31 日と 11 月 2 日のように多数まとまっての翅の打上は過去最多である（図 1）．いずれの場合も翅は風波によって集められ、それほど散逸してはいなかった．なお、その前後の日（10 月 30 日と 11 月 4 日）にはアケビコノハの翅の打ち上げは全く見られなかったし、今回のように特定の日に集中されて打ち上がった．

アケビコノハは果実を吸汁するヤガ科の一種で、様々な果樹の実るこの季節に多く発生するという．しかし、実験所構内およびその付近で本種の成体や幼虫を目撃したことはない（久保田，未発表）．他地域でも浜辺に本種の翅が打ち上がることもあるのかは不明だが、当該地域では、“北浜”海岸への漂着が起きやすい何らかの要因（たとえばコウモリ類や鳥類によって本種が捕食される）があるものと推察される．



図 1 漂着したアケビコノハ
前翅を横・縦に交互に配列し 4 日分の毎日の漂着状況を左から右へと示す

表 1 アケビコノハの翅の京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”への 2013 年秋の 4 日分の漂着数

翅の区分	10 月 31 日	11 月 1 日	11 月 2 日	11 月 3 日
前翅	7	2	6	1
後翅	1 2	2	4	0
計	1 9	4	1 0	1

引用文献

久保田 信. 2009. アケビコノハ（ヤガ科）複数個体が 2008 年 11-12 月に和歌山県田辺湾の浜辺へ漂着. KINOKUNI, (75): 5.

（くばた しん 和歌山県西牟婁郡白浜町 459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所）